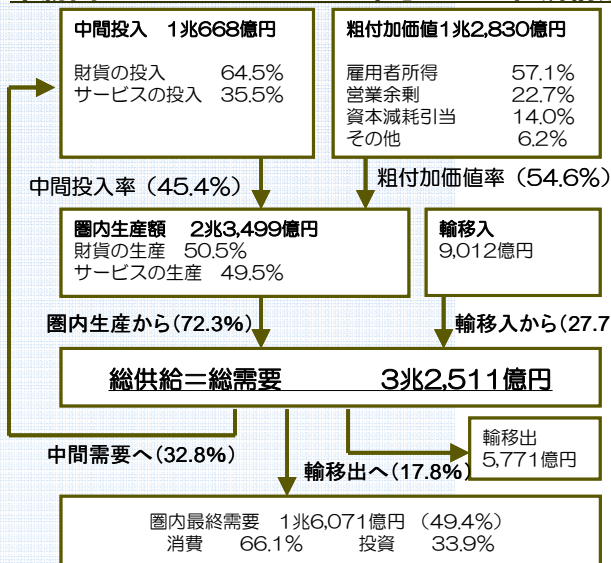


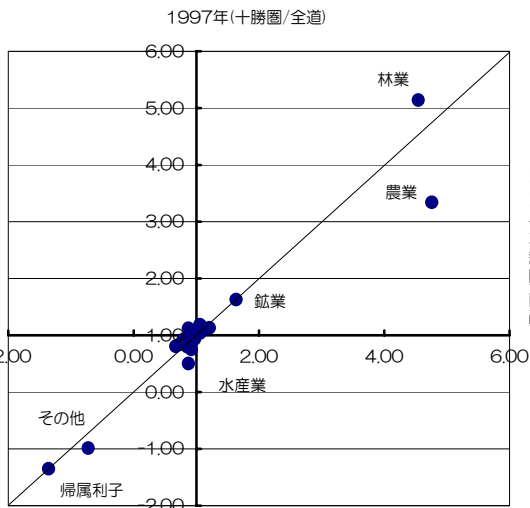
フードシステム視点による十勝経済構造の分析から 地域経済の活性化・雇用創出と街づくり・地域づくりへ — 帯広畜産大学・帯広信用金庫共同研究 —

十勝圏のフードシステムを中心とした経済構造の変動の解明



1995年十勝産業連関表による財貨・サービスの流れ

- 十勝の圏内生産額：2兆3,499億円(1995年)
- 北海道の支庁間比較→1次、2次、3次産業の構成が比較的バランス
- 生産額の割合が1割強の1次産業が生産額の半分以上を移輸出：1次産業が十勝の基盤
- 圏内生産額の半数程度がフードシステムと関わっている
- 十勝のフードシステムは移輸出が中心



バブル崩壊以降の経済構造の変化

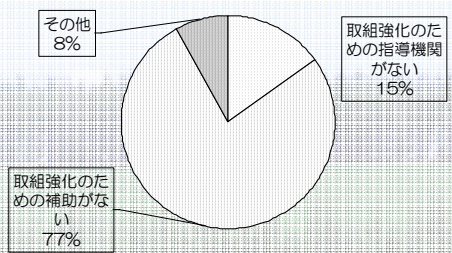
- 表面的な経済の悪化はみられなかった。
- 特化係数の高い農業はその比重を徐々に低下
- 建設業の特化係数が高くなってきている

- 公共事業依存の経済構造：必ずしも望ましくはない。
- 十勝地域のフードシステム内のネットワークの進化：食と観光の連携、付加価値の高度化、消費者との接点の集積、イメージの共有、地産地消
- 新たなる産業の育成：産業構造の高度化

十勝圏における食の安全性とフードシステムの発展

- フードシステムが地域において重要な位置づけにある北海道や十勝
- 安全性に対する消費者の信頼を失った場合の地域における経済的影響は非常に大きい
- 食品の安全性に対する取り組みが高度かつ地域的な広がりで行う必要

食品産業における衛生管理強化の取組導入の際の問題点



- 食品製造における衛生管理高度化手法導入のためのコンサルティング組織設立・施設導入にたいして資金創設

食品廃棄物の再使用・再生利用の現状と課題

十勝圏内における有機性事業系ごみの発生量と再生利用率

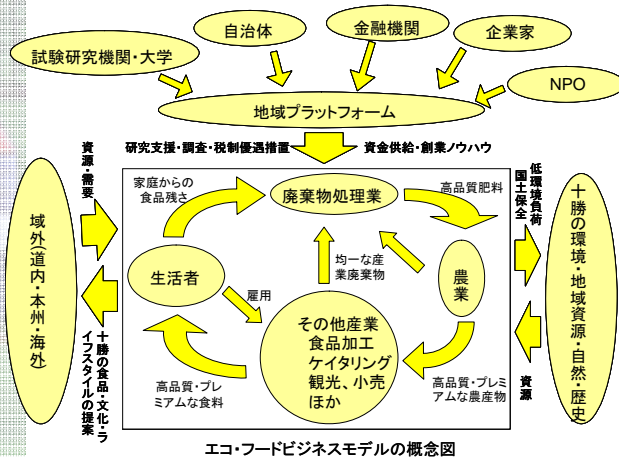
	発生量		リサイクル率	
	北海道	十勝	北海道	十勝
食品産業計	150,490	9,943	1.4	1.7
食品製造業	43,326	3,552	4.3	4.3
食品卸売業	5,051	288	0.1	0.1
食品小売業	36,622	2,272	0.1	0.1
外食産業	65,491	3,831	0.4	0.4
鉱業	87	8	1.2	1.2
建設業	5,047	353	0.3	0.3
食品以外の製造業	1,992	114	2.7	2.7
電気・ガス・熱供給・水道業	286	15	0.3	0.3
運輸・通信業 (外食産業除く)	3,474	212	-	-
卸小売業 (飲食物品除く)	21,745	1,396	0.0	0.0
金融・保険業	1,402	76	-	-
不動産業	789	29	-	-
サービス業 (結婚式場業除く)	50,496	3,051	4.6	4.3
公務 (他に分類されないもの)	2,648	195	-	-
合計	238,456	15,393	1.9	2.0

資料：羽原等[7]と総務省統計局[5]

- 注：1)平成13年の推計結果である。
- 2)空白部分は0、0表示は単位に満たないことを示す。
- 3)「再生利用率=再生利用量/発生量×100」である。

十勝圏におけるエコフードビジネスモデルの構築

- 環境問題を克服・循環型地域社会を創出
- 廃棄物の再利用や低負荷処理のためのシステムづくり
- 安全・安心な食料を消費者に供給するための農業生産システムづくり
- フードシステム高度化による雇用創出の可能性



十勝/帯広の地域づくり/街づくり

- 安心/安全/魅力ある街/地域
- 十勝らしさ、帯広らしさ
- 十勝の中の帯広
- 中心部と郊外の関係
- 「コンパクトシティ」
- 住民の買い物行動に基づく郊外/中心部商店街の発展
- 農業の多面的機能に対する、国民、地域住民の理解、深化の重要性